

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 家庭科 科目 家庭総合

教科： 家庭 科目： 家庭総合 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （ 1～6 組： 小野 百合恵 ）

使用教科書： （ 「家庭総合 持続可能な未来をつくる」 （第一学習社） ）

教科 家庭科 の目標：

- 【知識及び技能】 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらにかかわる技能を体験的・総合的に身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な知識と、それらにかかわる技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活 n 中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身につけている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<ul style="list-style-type: none"> ●生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解する。 ●自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任を持って行動することが重要であることへの理解を深める。 ●個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解し、家庭の生活を支える収入と支出の運営など、家計の管理について理解する。 	1. 生涯の生活設計 (1) 生涯発達する自分 (2) 青年期を生きる (3) 将来の経済生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯発達の視点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見通し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解している。 ●自立した生活を営むために、生涯を見通しながら、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、過去から現在までの自分をみつめ直し、自分の生き方についての課題を解決するために思考・判断できる。 ●個人や家族の生活目標を実現するためには、経済計画が必要であることを理解し、自分の将来について関心を持ち、その充実・向上をめざして生活設計・経済設計を実践する態度を身につけている。 	○	○	○	5
<ul style="list-style-type: none"> ●家計の破綻を防ぐためには、家計の収支を管理する必要があること、そして収支のバランスをとるには自己診断と生活設計が必要であることを理解する。 ●家計収支のバランスをとることの大切さ、可処分所得の意味について思考を深め、適切に判断する能力を身につけている。 ●人の一生にかかる費用について関心を持ち、それを営むうえで実践的な態度を身につける。家計の収入と支出について関心を持ち、家庭生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組む態度を持つ。 	(3) 人生とお金 (4) 収入と支出のバランス 2. 住生活をつくる (1) 快適で安全な住まい	<ul style="list-style-type: none"> ●家計の破綻を防ぐためには、家計の収支を管理する必要があること、そして収支のバランスをとるには自己診断と生活設計が必要であることを理解している。 ●家計収支のバランスをとることの大切さ、可処分所得の意味について思考を深め、適切に判断する能力を身につけている。 ●人の一生にかかる費用について関心を持ち、それを営むうえで実践的な態度を身につける。家計の収入と支出について関心を持ち、家庭生活の充実・向上をめざして意欲的に取り組む態度を持つ。 	○	○	○	5
<ul style="list-style-type: none"> ●住まいの機能を理解し、住まいの設計や平面図の作り方など、部屋づくりに関する基礎的・基本的知識を身につける。 ●自分や家族のライフスタイルにあった住まいについて思考し、創造する。快適な住空間づくりについて、自分なりの課題を見つけ、その解決のために取り組む。 ●ライフステージに合った住空間について、快適性・機能性の両面から改善しようとしたり、自宅の部屋構成や住空間での家具・用具の配置について関心を持ち、改善しようとする意欲を持つ。 	(2) 平面図の活用 (3) 住生活の計画と選択 (4) 生涯を見通した住まいの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●住まいの機能を理解し、住まいの設計や平面図の作り方など、部屋づくりに関する基礎的・基本的知識を身につけている。 ●自分や家族のライフスタイルにあった住まいについて思考し、創造する。快適な住空間づくりについて、自分なりの課題を見つけ、その解決のために取り組んでいる。 ●ライフステージに合った住空間について、快適性・機能性の両面から改善しようとしたり、自宅の部屋構成や住空間での家具・用具の配置について関心を持ち、改善しようとする意欲が見られる。 	○	○		8
定期考査 振り返り			○	○		2

